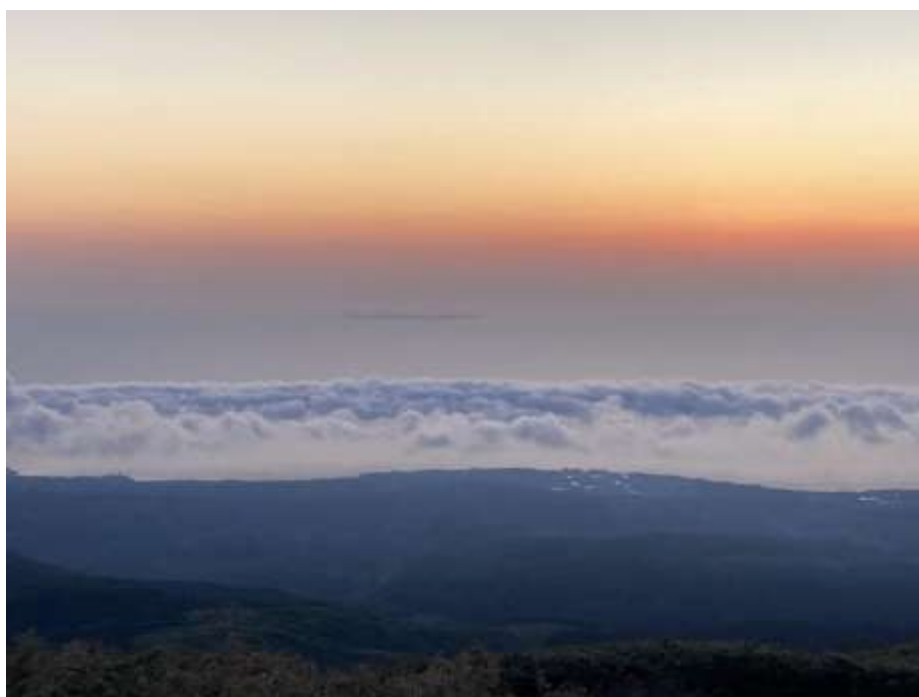


鳥海山・山スキー三昧

T野

メンバー：T野・Y科・A原・E居

2024年5月4日～5日



GW連休後半は、鳥海山で山スキー三昧である。ここ数年、GWの山スキーは大勢でワイワイと楽しんでいたが、一転、今年は総勢4名、よく考えればこれが普通で、ここ数年が異常だったのだが、その異常さに慣れてしまったのか、車1台にコンパクトに収まるメンバー構成に不思議な感覚を覚える。東京からは3名なのでなおさらだ。そしてもう一人は、弘前からE居チャンが参戦してくれた。考えてみると、今年はE居チャンとは3月にもご一緒していて、「久しぶり！！」という感じではなく、「どうもどうも・・・」という感じで距離を越えて普通の会員のような感じである。E居チャンもだんだんI崎さん化（遠隔地から頻繁に参加してくれる。）してきて嬉しい限りだ。

■写真上 象潟の松島から望む鳥海山！！

■写真下 鉾立のマジックアワー！！

東京発の我々は、5/2の夜に東川口を出発。GW中は休日割引が効かないので、涙ぐましい努力で時間調整して、日付変更線直後に福島で高速を降り、深夜割引だけはしっかり利用させてもらう。さらに、無料区間の東北中央道で米沢まで行き、「道の駅米沢」で仮眠した。明日



に備えて少しでも早く着きたい反面、少人数で遠距離ゆえ、少しでも節約したい・・・。まさにハムレットの心境だ。

5/3

本来、祓川ヒュッテ泊まりの予定だったが、5/4の天気予報は晴れにもかかわらず、天クラはなぜかC、おそらく風が強いのだろう。そこで、メインの北東斜面を5/5に変更して、今日は滝の小屋まで行くことにして、E居ちゃんとの合流は羽後本荘駅から象潟駅に変更する。しかし、ここ数日のヤマレコを確認すると、滝の小屋までのアプローチは、かなり雪が少なく、下部は板を担がねばならないようだ。さらに、「妖怪板掴み」も発生していて、板が全く滑らず、滝の小屋から下は滑降がほとんど楽しめないということだ。ここは思案のしどころである。

そして、出した答えは・・・？

入山口の標高が高く最初からシール歩行出来て「妖怪板掴み」がないブルーラインの鉾立から文殊岳に日帰り



登る計画に変更する。ピンポン！！ 我ながらナイス判断ではないか・・・（自画自賛）！！

■写真上 5/4、鉾立と大平山荘の間にあるパーキング。ここからは雪が繋がっている。

■写真中 日本海の大草原を背に登る！！

■写真下 御浜小屋から見た、新山と鳥海湖！！



さて、10時過ぎに象潟駅でE居チャンと合流。今日は歩かないので、時間を持て余している。さて、どうするか・・・？ まず、考えたのが山菜狩り！！早速、ブルーライン下部でコシアブラ探し・・・しかし、すでに盛りが過ぎていて収穫はほぼゼロ。お腹も減ったので一度、麓の「道の駅鳥海」戻り昼食。GWなので凄い人だ！！時間に余裕がなければイライラするところだが、時間だけは持て余しているの、余裕で待つこととする。

僕はチャーシュー麺を食べたが、味もなかなか美味しかった。さらに旨そうな山菜をゲット。そして仕切り直し、この上には杉林がない標高500mくらいまで上がって再びコシアブラ採り！！ありました・ありました！！今回、だいぶコシアブラ目が鍛えられた。ただ、これはいつも翌年になると振出しに戻ってしまうのだが・・・。

- 写真上 新山バックに！！
- 写真中 文殊岳目指して！
- 写真下 左が新山、右の雪が多い山が文殊岳。手前の雪が少ない山は扇子森かな？



獲物を大事に新聞紙でくるみ、鉾立に向かう。天気は良いが天クラ通りで風が強い。ビジターセンターで時間をつぶしスタッフの人と話すと、御浜小屋には管理人が入っていて泊まれるということだ。先日、御浜小屋の連絡先に問い合わせたら「GW中は閉鎖している」ということだったが、直前までわからないのだろうか？もし、次回があるのなら、ビジターセンターに連絡した方が正確な情報が得



られるのかもしれないので覚えておこう。御浜小屋をベースにできれば、新山～千蛇谷や、文殊岳・笹ヶ岳などの魅力ある斜面に短いアプローチで行くことができるので、存在価値は大きい。

ブルーラインは17:00から翌日8:00まで通行止めになるので、日帰りの人は次々に下山していき駐車場はガラガラになる。ここにテントを張り、日本海に沈む夕日を見ながらE居チャンのせんべい汁と道の駅で仕入れた山菜で入山祝い。明日の早出に備える。（ここはトイレもある。ただ、水はない。）

5/4

4:00 起床、各自お湯でできる朝食を済ませて、鉾立と大平山荘の中間地点にある駐車場に車を停めて、6:30 出発。嬉しいことに最初からシールで歩ける。登りはトレースがバッチリあり、人も多いので迷いようがない。ただ、帰路は、今年は2カ所ほど藪を越えるところがあって、そこを見逃して降りて行ってしまう可能性が高く注意を要する。途中、1回休み、8:54に御浜小屋に到着。巨大なクレーターを彷彿させる雪に覆われた鳥海湖が真下に見える。

- 写真上 文殊岳山頂！！
- 写真中 千蛇谷と新山。
- 写真下 文殊岳南西斜面を軽快に滑降！！

さて、ここから文殊岳に登るにはいくつか方法がある。一度、二の滝口方面に標高差250mほど滑り降りて、1450m付近からダイレクトに登り返すというのがひとつ。そして、もう一つ



の方法はほぼ外輪山通しに尾根沿いに登る方法。さらに、体力に自信があれば、筈ヶ岳に登って、

東面の名物斜面を滑った後に文殊岳に登り返す、という選択もできる。我々はせっかく登ったのに降りることに抵抗があったので尾根通しルートをチョイス。面白味はないが、体力的にはこれが一番楽であろう。幸い雪は繋

がっていてシール歩行で全て登ることができ、約2時間、11:15に文殊岳に登頂！！荒々しい新山の山頂から千蛇谷を滑る人が真下に望める。辺りの景色はさすが鳥海！！雪砂漠が延々と広がっていて、どこでも快適に滑れそうだ。文殊岳で一緒になった単独行の人は、早朝に出発、すで

に新山に登って、千蛇谷上部を滑り、登り返してここにいるという。ス・スゴイ！！

■写真上・中・下 ともに文殊岳南西斜面の滑降！！スケールの大きな大斜面に酔う！！

さて、山頂から直接降りる斜面は狭くてクラックが走っていてあまり快適ではなさそうなので辺りを観察。5分程稜線沿いに伏拝岳方面に雪のない登山道を歩くと大きな斜面が現れ、ここを滑ることにする。ここはまさしく2年前に滝の小屋からアプローチした時に雄たけびを上げて滑った斜面だ。単独行の人は、さらに筈ヶ岳を目指して早々に滑って行った。彼のように1日で新山・文殊岳・筈ヶ岳を走破するのは我々には無理な相談だが、御浜小屋をベースにして、2日間で分けて滑れば充分我々でも楽しめそうだ。次回の課題だね。

さあ、我々も準備して滑降開始！！雪は生きていた！！快適なザラメがどこまでも続く！！帰路で楽をしようと思えば、西斜面を稜線に並行して滑ればよいが、傾斜も緩くダイナミック



さに欠ける。快適さに身を任せて滑れば、自然に南西方向に落ちていくことになる。当然、我々も快適さに任せて南西方向に……。標高差約530m！！気持ちいい快樂斜面！！ここまで登ってきた甲斐があった！！

降り着いた場所は、1465m付近の雪原。ここからは登り返しだが、ルーファイのセンスがなくかなり遠回り。さらに、最後の急斜面は雪が腐っていて、万が一スリップすると登る気力がなくなりそうなのでロープを出して念のために確保。E居ちゃんやY科さんには余計な体力を使わせてしまい申し訳ない。A原さんは元気そうなのでまあいいか。

ここは、二の滝口登山道沿いに御浜小屋に登り返すのが順当か？（実際、歩いていないのであくまで地図を見て判断する限りだが……）



■写真上 日本海に飛び込むような滑降！！
■写真中 5/5 祓川ヒュッテから出発！！
■写真下 祓川ルートは大賑わい！！

さて、思った以上に苦労して、疲れ果ててようやく稜線に合流。後は日本海に向かって快適に滑って行けば良いのだが、1395m付近で右の尾根に入る場所



で藪を一跨ぎするところを、気付かず 20mほど滑って、突然、トレースがなくなったのに気づく。幸いすぐに気づいたのでカニ歩きで登って大事には至らなかった。もし、そのまま滑って行っても問題なかったのかもしれないが、雪が少ない今年は、藪に阻まれて苦労したかも知れない、答えは行ってみないとわからないが、無駄な苦労はしたくないので戻って正解だったと信じたい。そして、



フィニッシュ！！ 15:40 駐車場着。ルートミスがあったので、思った以上に時間がかかったが充実した1日だった。疲れたけど、一応皆、まだ元気だ。

さて、今日はここからまだやらなければならないことがあって忙しい。というのも、今日中に祓川ヒュッテに移動したいからだ。まず、麓に降りて温泉探し。

■写真上 南の空には月山が浮かぶ！！

■写真中 七高山から千蛇谷と外輪山を望む！！一番右のピークが昨日登った文殊岳かな？

■写真下 七高山山頂！！



「道の駅象潟」で入ろうと思ったがGWの混雑で車が停められず、そこから少し走ったところにある「にかほ市温泉保養センターはまなす」という施設を見つけて入浴。ここは¥400とリーズナブルで広くて空いていた快適！！今後も使えそう。後は一路、祓川ヒュッテを目指し、20:00頃



到着。料金¥1,800、東北の小屋はリーズナブルで有難い。

21:00 消灯なので、すぐに食事の準備。一昨日採ったコシアブラご飯メインで締めて、忙しかった1日が終わりを告げた。みんなあーよく頑張った！！明日も頑張ろう！！

■コースタイム

鉾立と大平の間の駐車スペース (6:30) ~ (8:54) 御浜小屋 (9:11) ~

(11:15) 文殊岳 (11:56)

~ (12:13) 1465m付近

(12:38) ~ (14:49) 1630

m付近稜線

(15:05) ~

(15:40) 鉾立と大平の間の駐車スペース



■写真上 七高山より鳥海山最高峰の深山を望む。

■写真中・下 いよいよメインディッシュ！！

5/5

4:00 起床、昨日の残りのコシアブラご飯+お湯でできる朝食でお腹を満たし、まず、朝一でE居車を猿倉登山口にデポしに行き、6:30 祓川ヒュッテを出発。気温が高く、早朝から雪はザクザクと柔らかい。2年前は確かカリカリでクトーをつけて登ったような



気がするが・・・。昨日の疲れもあるので、七高山まで標高差約 1050mをゆっくり登る。今日は、200 人くらいは登っているのではないかな？ いわゆる行列状態、1年で一番賑やかな日だと思う。それでも斜面がとてつもなく広いので、徐々に散らばって行き、あえてメインストリートを歩かなければ、それほど人の多さは気にならない。登るトレースが何本もあるが、ど



れが一番楽なのかはわからない。まあ、「あみだくじ」のようなものである。ただ大外れはなさそうなので、自分の信じた道を行くのみである。

今日もメンバー皆、頑張る。特に70を超えているY科さんは昨日・今日と連続で標高差1000m超え！！たいしたものである。E居ちゃんも多少遅れるけど弱音を吐くどころか、結構明るいのがいい！！普段あまり登っていないのに元気だ。A原さんは言うに及ばず、



「自由に歩いていいよ」と言ったら糸の切れた凧のようにビューンと登って行ってしまおうだろう。でも、人のペースにも合わせられるのがA原さんならではだ。ということで、決して早いペースではないが確実に高度を勝ち取っていく。

■写真上・中 七高山北東斜面を満喫する！！

■写真下 大満足！！



山頂直下の斜面は、散り散りになった登山者が再び終結するので人・人・人である。そして、11:15 七高山に到着！！目の前には鳥海山の最高峰、新山！！その奥には日本海の大海原！！さらに南の空には月山が浮かぶ。東に目を転じれば栗駒・焼石らしき山塊も霞む。要は今日も良い天気で最高だ、ということだ。

さて、準備したらお楽しみの滑降だ！！ここが今回の山行のメインディッシュ、2年前に見つけて狂喜乱舞した標高差 700m 超えの大斜面である。

いざ！！気温が高いので雪は少し柔らかめだが、良く走るザラメで超快適！！御田ヶ原に向かって、滑りごろの斜面をガンガン飛ばす。降りるにつれシュプールはほとんどなくなり貸切バーンが続く。これだけ気持ちの良い斜面は、日本広しとは言えそうはないだろう。あまり紹介されていないが、人が多くゲレンデ状態の祓川ルートより 100 倍楽しい！！あまりの快適さに、写真を撮るのももどかしく、一気に滑り降りる。雪が重くなり、名もなき湿原が雪を割って顔を出せば滑降も終了、標高約 1470m 付近である。標高差約 750m の快樂でした！！



■写真上 滑降終了点は、名もなき湿原！！

■写真中 充実感！！

■写真下 滑走路！！



このルートの良いところは、これだけ滑っても登り返しが200m程しかないということである。コスパ最高！！昨日の登り返しと比べれば、標高差は似たようなものだが、労力は天国と地獄の差がある。

■写真上 登り返し。

■写真中 第2ステージ開幕！！

■写真下 緩急変化のある大斜面！！



さて、第2ステージである。2年前は登り返した後、祓川に向かって荒れたグレンデのような斜面を、消化試合のような滑降をしたが、今年は、猿倉口に車をデポしたことで、目的地は祓川ではなく猿倉口だ。なので、まだまだ楽しめる。1690m付近の尾根まで登って猿倉口方面に滑降！！予想通りシュプールも少なく快適に滑れる。気がつくと予定のルートより西寄りにずれてしまい、登り返しも覚悟したが、こちらを滑っている記録もあるので、そのまま滑降を続ける。登山道では行けない幻の池などもあり、結構変化のある斜面が続き、楽しめ、祓川ルートよりもずっとワイルドで楽しいルートであった。ちなみに、今回滑ったルートは猿倉口登山道より西側を滑ったが、正規のルートは登山道の東側を滑るようである。かなり昔に一度滑ったことがあるが、記憶だとメローな斜面が続き、今回のようなワイルドな雰囲気ではなかったような気がする。いずれにしても「山」を感じるこ





とのできる好ルートで、車が2台あるなら、祓川ルートより断然こちらがお薦めだ。

だが、最後の最後でブナ林に突入し標高1100m付近まで下りると予期した出来事が……。そう、あの「妖怪板掴み」が現れ、コータールのような黒い粘着質の物体が滑走面にこびり付き、急に滑りが悪くなった。リムーバーは持参しているが何回使用しても無駄なことはわかっていて、終了点までもうすぐなので、そのまま滑りの悪い板で下降していく。やがて、道を走っている車が見えると猿倉口の登山口はすぐであった。

登山口で板をリムーバーで洗い、無事今シーズンの板を納めることができた。ここは標高約1000m、もう完全に春である。諸々準備をしていると、どこからともなくブヨが集まり出し、鬱陶しいことこの上ない。約200m高い祓川では全くブヨもないし「妖怪板掴み」もない。標高差200mもないのに、山の雰囲気全然違うのだ。不思議なものである。

■写真上 この時期しか行けない幻の池。

■写真中 この辺り、「妖怪板掴み」が発生していたが滑らず。

■写真下 麓からの鳥海山北面！！

気持ち良く板納めをして、温泉はフォレスト鳥海。昨日同様ここもホテルとは思えない¥400とお値打ち価



格！！露天もサウナもあって気持ちがいい。惜しむらくは近くに鳥海山の絶景があるのに風呂からは望めないことか……。この辺りから見るこの時期の鳥海は、新緑と残雪のコラボがウットリするほど美しく、姿かたちも、この辺りから見るのが一番格好いいと個人的には思っている。それゆえ、風呂から鳥海が見えないのは返す返すも惜しい。

■写真 打上げ！！

キレイな体になって打上げは由利本荘のとんかつ屋「かつ喜」で……。後で気づいたがここは、仕事で来た時に案内していただいて一度来たことのある店だった。お値段は少し張るが、美味しく、ボリュームもあり下山して肉が食べたいときには最高の店だ。この後、どこかの安宿に泊まれば100点満点だったのだが、さすがにGW、良い宿は見つからず、某所で静かに下山祝い。翌朝、朝食後に解散、大きな渋滞もなく早い時間に帰京した。

今回、天候にも恵まれて鳥海山の滑りごたえたっぷりのルートを2本滑れて大満足！！良い板納めになりました。ご一緒いただいたメンバーの方々に感謝！！鳥海はやっぱりいいですね！！今度はどこを滑ろうかしら……。

■コースタイム

祓川 (6:30) ~ 途中3回休憩 ~ (11:15) 七高山 (12:05) ~ (12:36) 1470m付近 (12:53) ~ (13:36) 1685m付近稜線 (13:53) ~ (14:55) 猿倉口